

障がいのある人を取り巻く現状

—統計及び調査結果から—

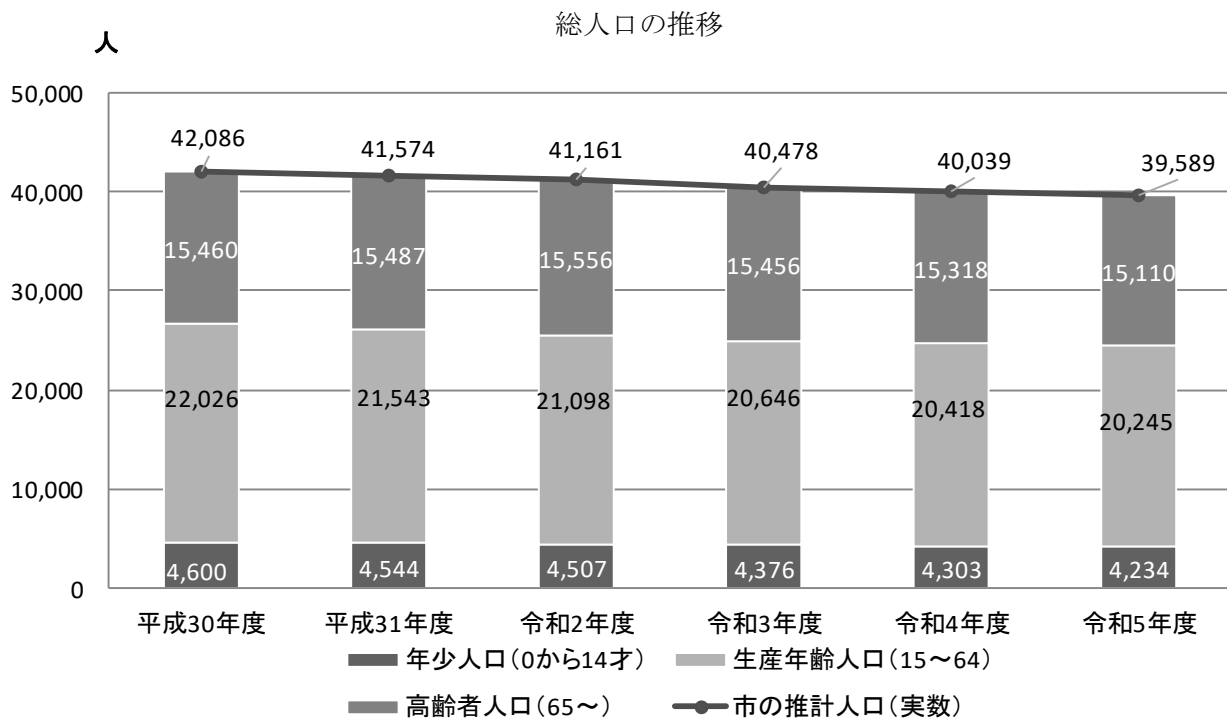
令和5年10月

中 間 市

障がいのある人を取り巻く現状

1. 人口・世帯数の推移

本市の総人口は、令和5年7月末現在で39,589人であり、減少傾向にあります。年齢3区分別にみると、いずれの年齢層も減少傾向にあります。



2. 相談件数

地域活動支援センター利用状況を見ると、相談内容では「福祉サービス利用等に関する支援」、「健康・医療に関する支援」、「生活技術に関する支援」の相談が多くなっています。

相談件数は増加傾向にあります。

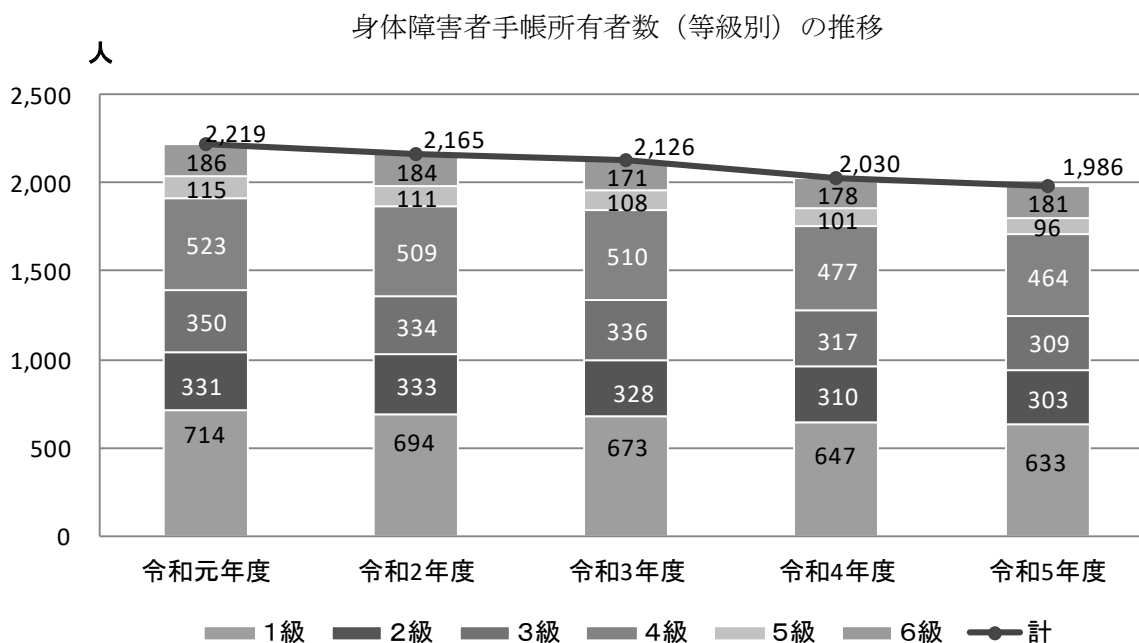
項目	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
福祉サービス利用等に関する支援	397	214	329	374	446	345	116
障がいや病状の理解に関する支援	19	12	16	31	68	10	1
健康・医療に関する支援	185	103	135	143	276	382	167
不安の解消・情緒安定に関する支援	222	241	83	197	273	150	106
保育・教育に関する支援	0	1	0	3	1	1	0
家族関係・人間関係に関する支援	143	84	57	65	79	127	31
家計・経済に関する支援	129	58	169	208	251	157	68
生活技術に関する支援	163	210	313	251	601	549	124
就労に関する支援	81	73	51	49	30	46	52
社会参加・余暇活動に関する支援	16	6	14	11	26	8	4
権利擁護に関する支援	19	49	14	3	11	14	1
その他	570	558	528	674	752	863	289
合計	1,944	1,609	1,863	2,070	2,829	2,675	959

資料：福祉支援課(各年度3月末現在、令和5年度は7月末現在)

3. 手帳所有者等の推移

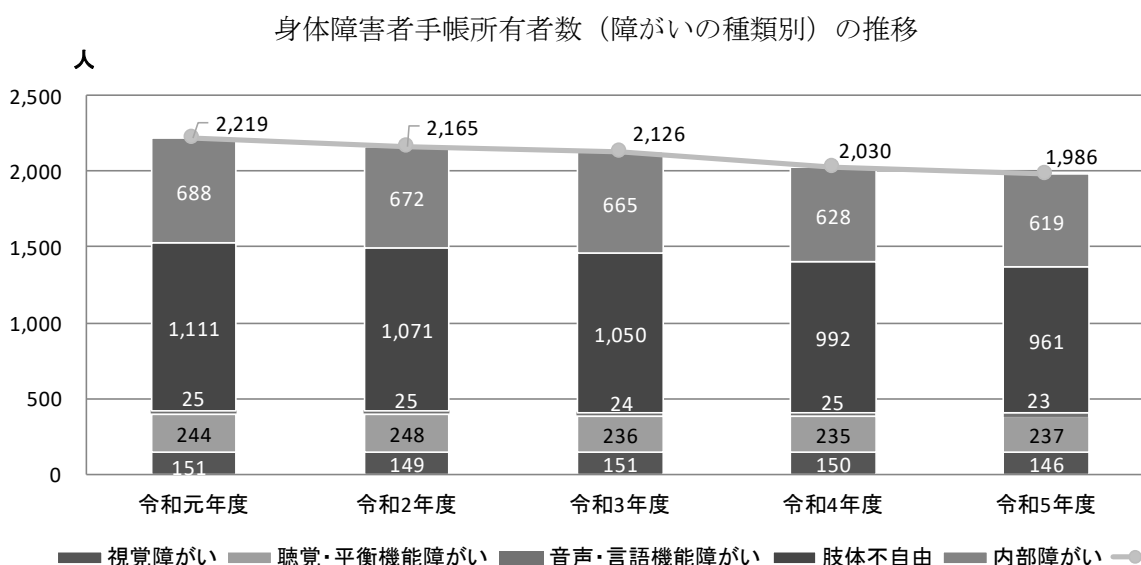
(1) 身体障がい者の状況

身体障害者手帳所有者数は年々減少傾向にあります。等級別にみると、令和5年7月末現在で1級と4級の占める割合が高くなっています。



資料：福祉支援課(各年度3月末現在、令和5年度は7月末現在)

令和5年7月末現在の身体障害者手帳所有者数を障がいの種類別にみると、「肢体不自由」が961人で最も多く、次いで「内部障がい」(619人)、「聴覚・平衡機能障がい」(237人)、「視覚障がい」(146人)、「音声・言語機能障がい」(23人)となっています。

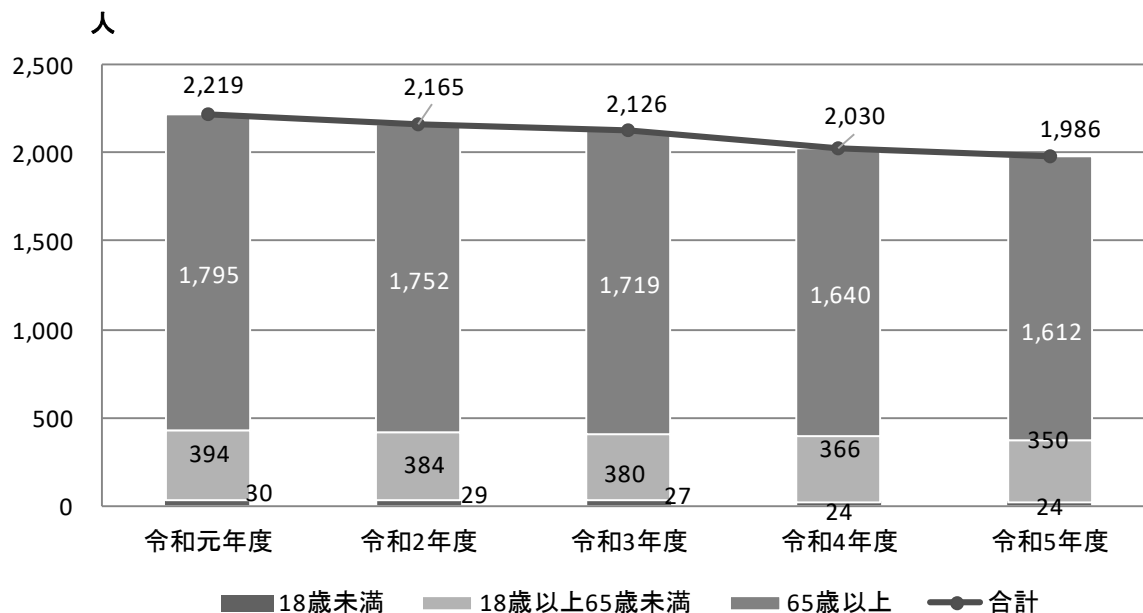


資料：福祉支援課(各年度3月末現在、令和5年度は7月末現在)

令和5年7月末現在の身体障害者手帳所有者数を年齢別にみると、「18歳未満」は24人、「18歳以上」は1,962人となっています。

年齢別の推移でみると、「18歳未満」、「18歳以上」のいずれもおおきな変化はみられません。

身体障害者手帳所有者数（年齢別）の推移

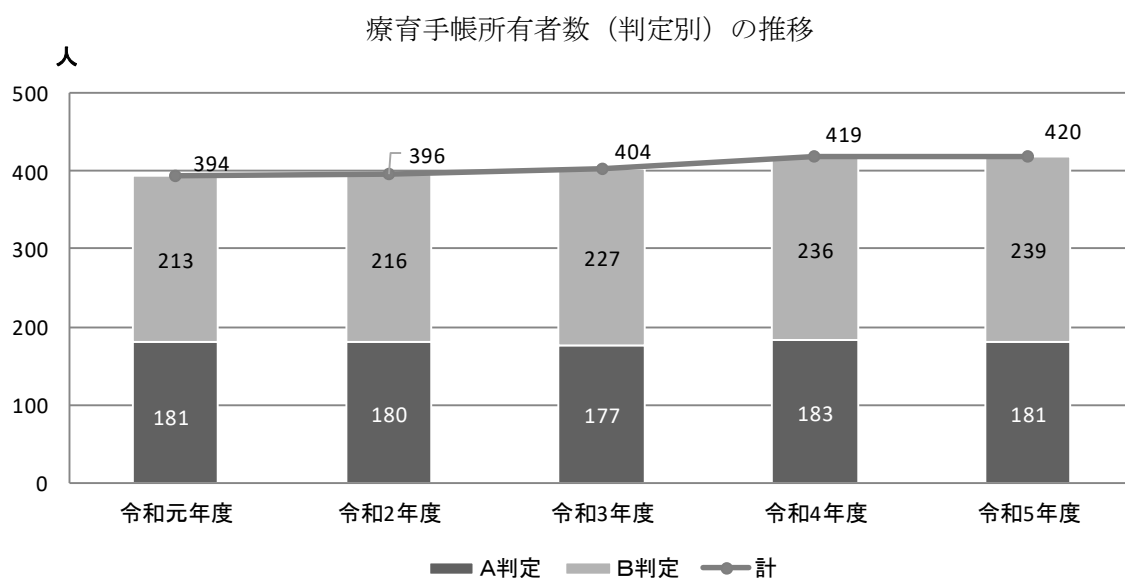


資料：福祉支援課（各年度3月末現在、令和5年度は7月末現在）

(2)知的障がい者の状況

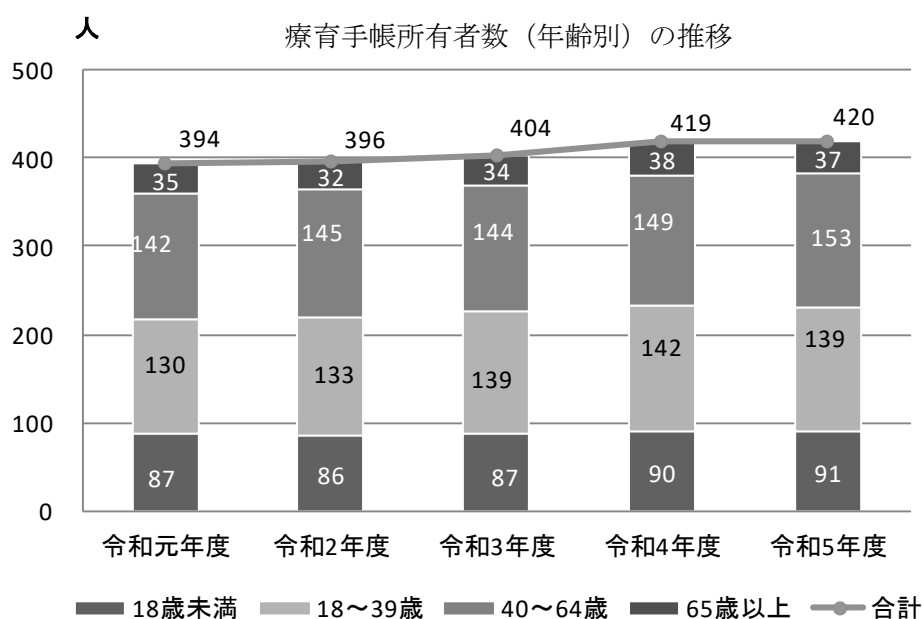
令和5年7月末現在の療育手帳所有者数は420人(「A判定」181人、「B判定」239人)となっており、総数は年々増加傾向にあります。

判定別構成比の推移でみると、「B判定」が「A判定」を上回り、その傾向が続いています。



資料:福祉支援課(各年度3月末現在、令和5年度は7月末現在)

令和5年7月末現在の療育手帳所有者数を年齢別にみると、「18歳未満」は91人、「18歳～39歳」は139人、「40～64歳」は153人、「65歳以上」は37人となっており、全体的には増加傾向にあります。年齢別構成をみると、「18歳～39歳」および「40～64歳」の割合が高くなっています。

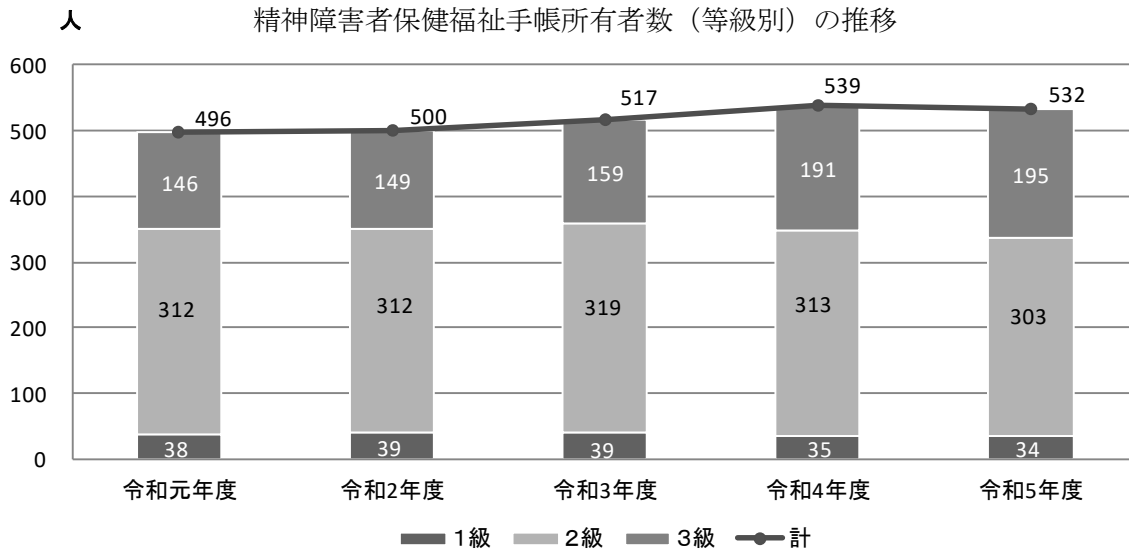


資料:福祉支援課(各年度3月末現在、令和5年度は7月末現在)

(3)精神障がい者の状況

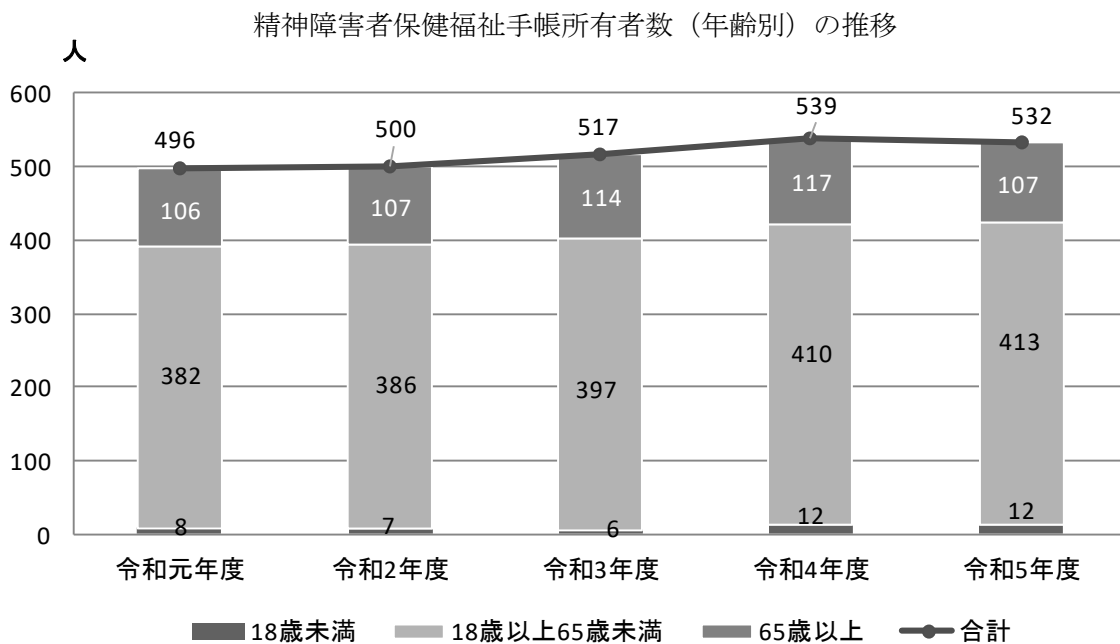
令和5年7月末現在の精神障害者保健福祉手帳所有者数は532人(「1級」34人、「2級」303人、「3級」195人)となっており、総数は横ばい傾向にあります。

等級別の推移をみると、3級が増加傾向にあり、令和元年度と比較すると所有者数は49人増加しています。



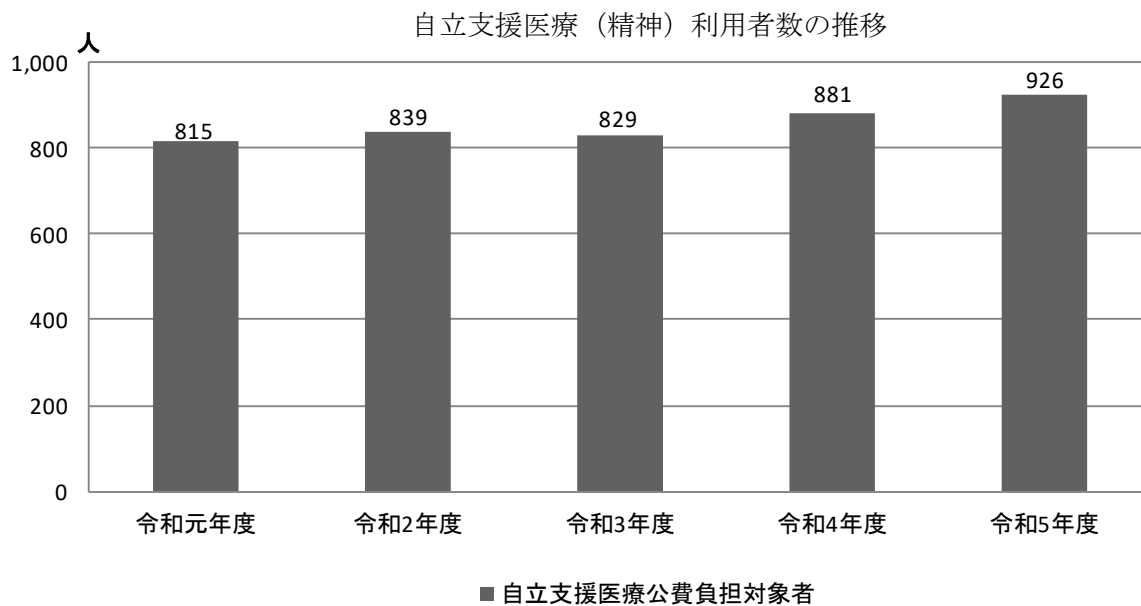
資料：福祉支援課(各年度3月末現在、令和5年度は7月末現在)

令和5年7月末現在の精神障害者保健福祉手帳所有者数を年齢別にみると、「18歳未満」は12人、「18歳～64歳」は413人、「65歳以上」は107人となっています。年齢別構成をみると、「18歳～64歳」の割合が高くなっています。



資料：福祉支援課(各年度3月末現在、令和5年度は7月末現在)

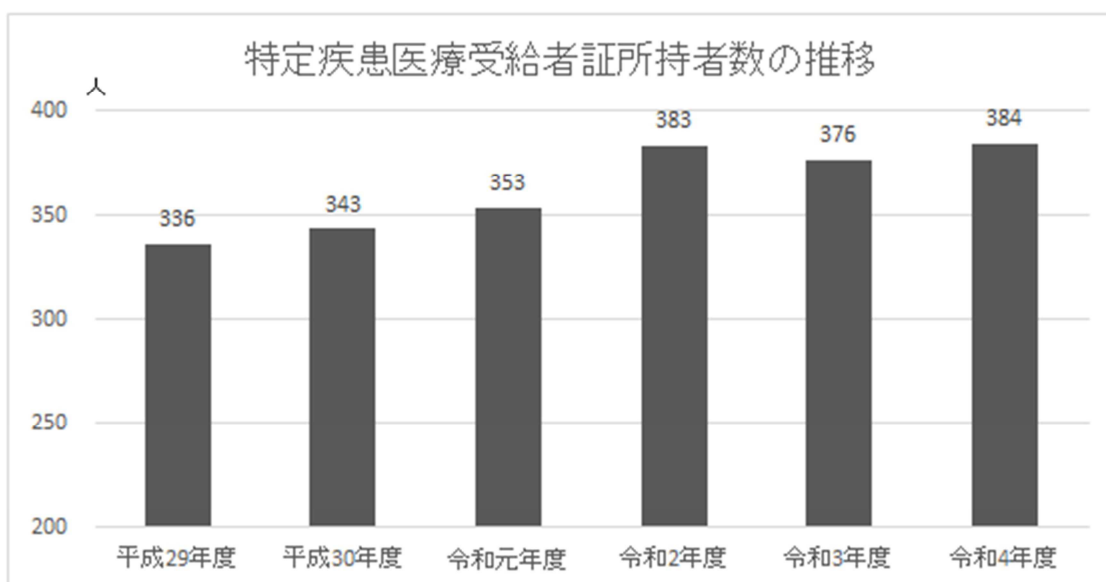
令和5年7月末現在の自立支援(精神)の利用者数(公費負担対象者)は926人で令和元年度の815人と比べると111人増加傾向にあります。



資料:福祉支援課(各年度3月末現在、令和5年度は7月末現在)

(4)難病患者の状況

令和5年3月末現在の特定疾患医療受給者証所持者数は384人となっており、平成29年度の336人と比べると48人増加傾向にあります。

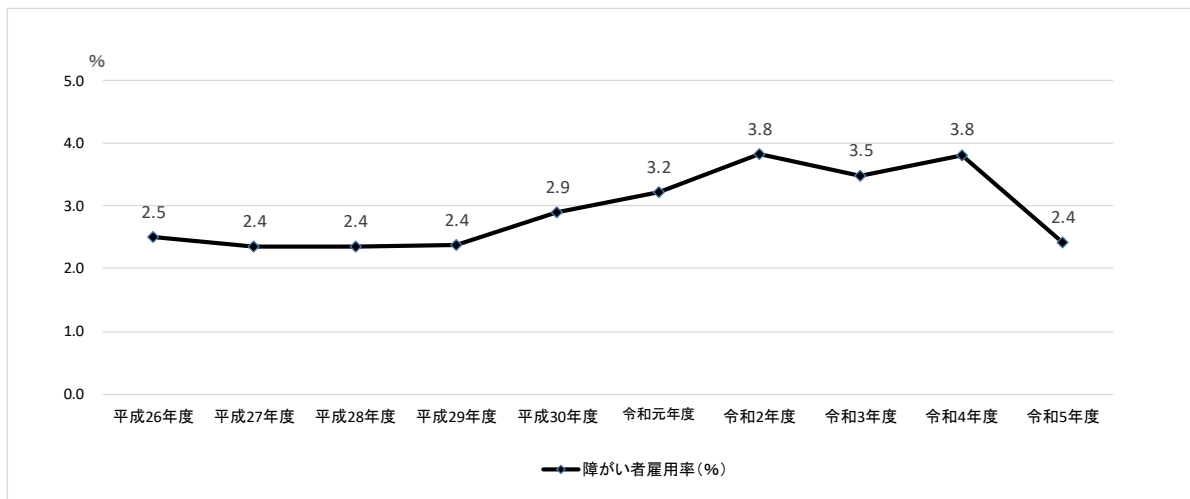


資料:福岡県(各年度3月末現在)

4. 雇用率の推移

令和元年度から令和4年度までの本市の行政機関における障がい者雇用率は3%台で推移していましたが、令和5年度については途中経過ではありますが7月時点で2.4%にとどまっています。

市の行政機関における障がい者雇用率の推移

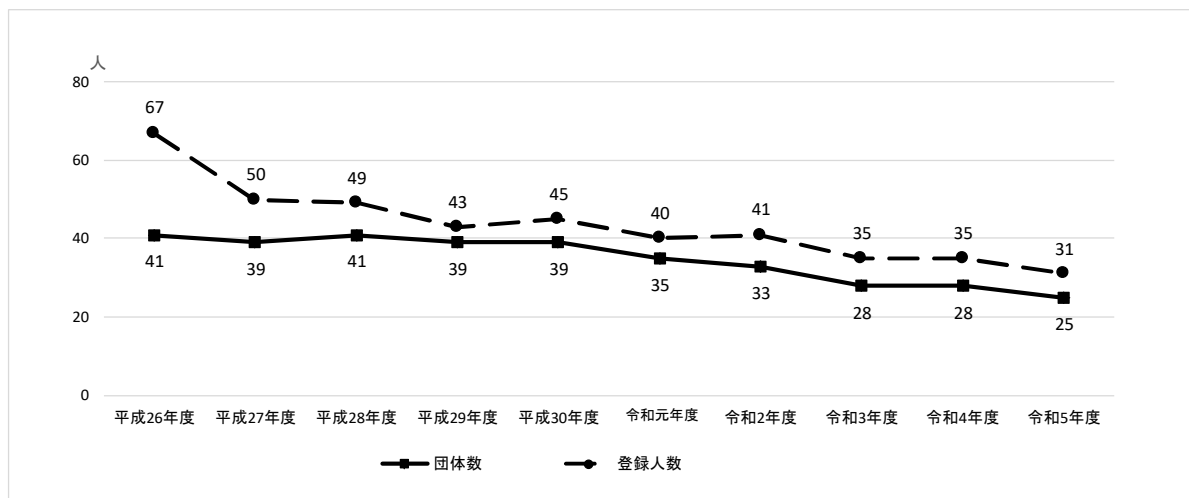


資料：総務課（各年度3月末現在、令和5年度は7月現在）

5. 関係団体等の推移

中間市におけるボランティア登録人数の推移をみると、令和5年7月末における団体登録数は31団体、個人登録数は25人となっています。団体登録数、個人登録数のいずれも減少傾向にあります。

ボランティア登録人数の推移



資料：安全安心まちづくり課（各年度3月末現在、令和5年度は7月末現在）

障がい福祉に関するアンケート調査結果抜粋

1. 調査の概要

◆調査の目的

中間市に居住する障がいのある人の現状を把握し、当該調査結果を「中間市第4次障害者基本計画」を策定するための基礎資料とする目的で本調査を実施しました。

◆調査対象及び調査の方法

調査対象者(配布数)	調査方法
中間市に居住するとともに、「身体障害者手帳」、「療育手帳」、「精神障害者保健福祉手帳」をお持ちの方 1,500 名 *「身体障害者手帳」所有者については、75 歳未満の方を対象に、障がい等級及び障がいの部位の割合が全体の割合と同様になるように抽出を行いました。 *「療育手帳」及び「精神障害者保健福祉手帳」所有者については、全員を対象としました。	郵送法

◆回収率

配布数	有効回収数	有効回収率
1,500 名	657 票	43.8%

◆調査時期

令和 4 年 10 月 13 日～令和 4 年 10 月 25 日

◆調査結果の留意事項

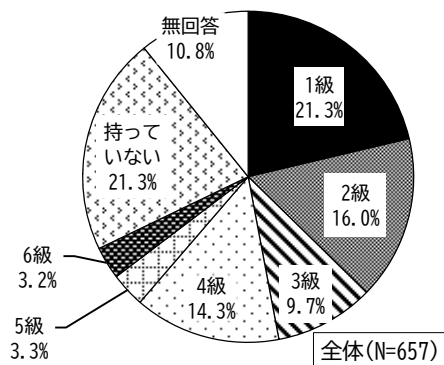
- ① 数表、文中に示すN、nは回答率算出上の基数(標本数)のことです。
N=標本全数
n=該当数(その質問を回答しなくてよい人を除いた数)
- ② 所有手帳については、複数の手帳をお持ちの方がいらっしゃるため、それぞれの計と標本数全数は一致しません。
- ③ 集計は小数点以下第2位を四捨五入しています。したがって、回答比率の合計は必ずしも 100%にならない場合があります。
- ④ 複数回答式の集計については、項目別に基数(標本数)に対するその項目を選んだ回答者の割合としています。従って、図表に示す各項目の回答率の合計は、原則として 100%を超えています。

2. 回答者の特性

(1)手帳等級・判定の状況

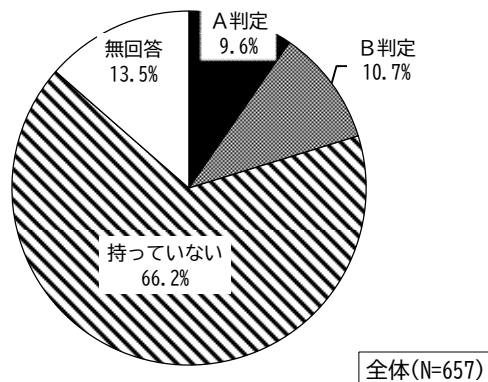
「身体障害者手帳」によるあなたの障がいの程度をお知らせください。

身体障害者手帳の等級（単数回答）



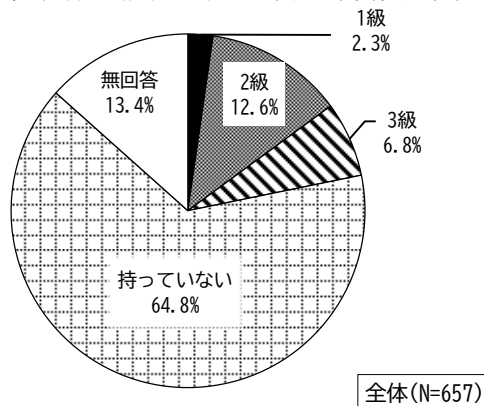
「療育手帳」によるあなたの障がいの判定をお知らせください。

療育手帳の判定（単数回答）

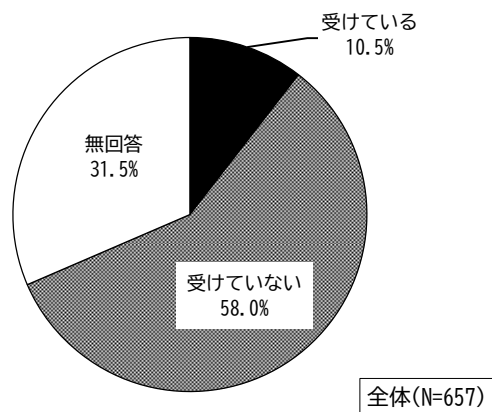


「精神障害者保健福祉手帳」によるあなたの障がいの判定をお知らせください。

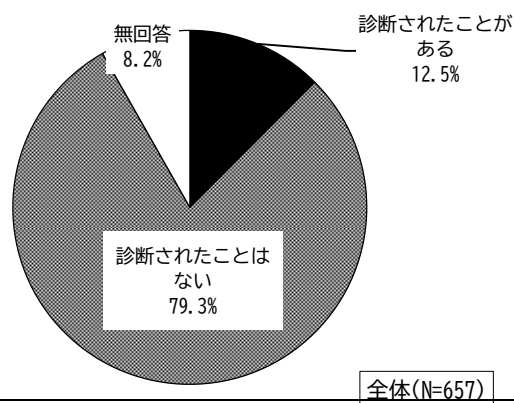
精神障害者保健福祉手帳の等級（単数回答）



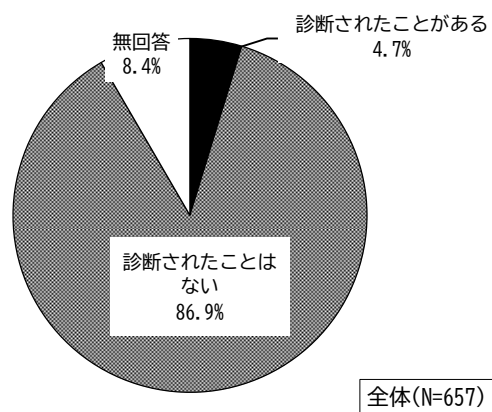
あなたは、難病（特定疾患）の認定を受けていますか。



あなたは、発達障がいの診断を受けていますか。



あなたは、高次脳機能障がいの診断を受けていますか。



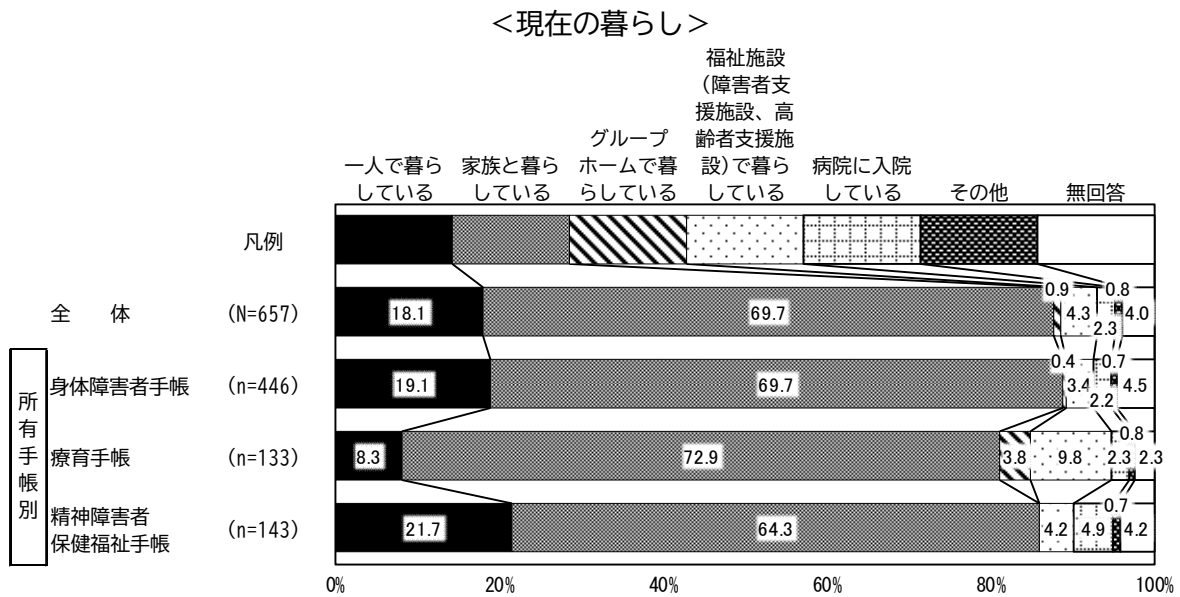
3. 住まい、暮らしについて

(1)現在の暮らし

あなたは現在どのように暮らしていますか。(○は1つだけ)

現在の暮らしについて尋ねたところ、「家族と暮らしている」(69.7%)が7割を占めて最も多く、次いで「一人で暮らしている」(18.1%)となっています。

所有手帳別にみると、療育手帳所有者は「一人で暮らしている」が8.3%と他を大きく下回る一方、「福祉施設で暮らしている」が約1割と高くなっています。また、精神障害者保健福祉手帳所有者では「病院に入院している」が他を上回っています。



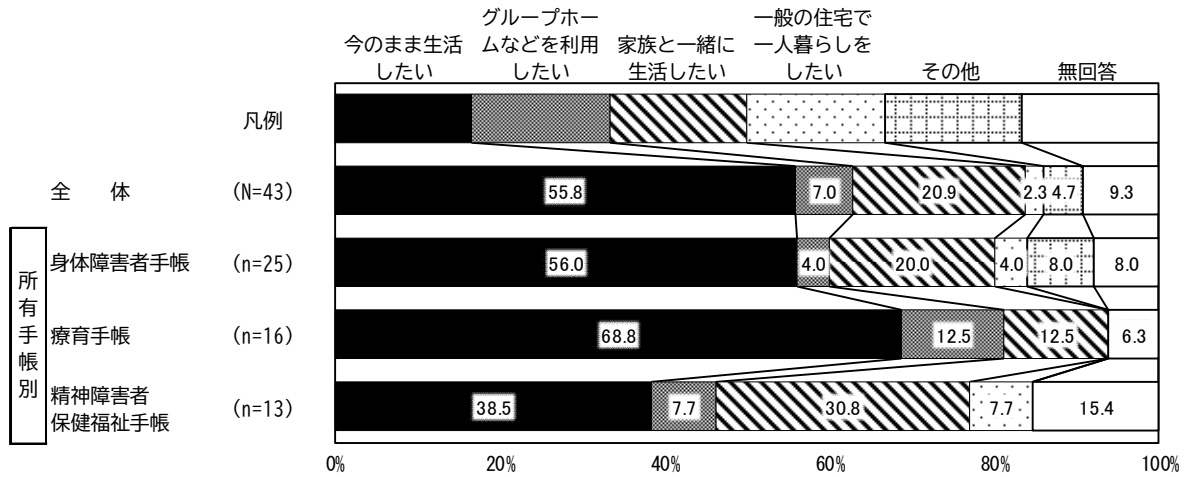
(2)将来の地域生活について

【「グループホームまたは福祉施設で暮らしている」方におたずねします。】
あなたは将来、地域で生活したいと思いますか。(○は1つだけ)

現在、福祉施設で暮らしている人や病院に入院している人に、将来の地域生活について尋ねたところ、「今のまま生活したい」(55.8%)が最も多く、次いで「家族と一緒に生活したい」(20.9%)、「グループホームなどを利用したい」(7.0%)、「一般の住宅で一人暮らしをしたい」(2.3%)の順となっています。

所有手帳別にみると、『地域生活を希望する』(グループホームなどを利用したい+家族と一緒に生活したい+一般の住宅で一人暮らしをしたい)が最も多いのは、精神障害者保健福祉手帳所有者(46.2%)で、以下、身体障害者手帳所有者(28.0%)、療育手帳所有者(25.0%)の順となっています。

<将来の地域生活について>

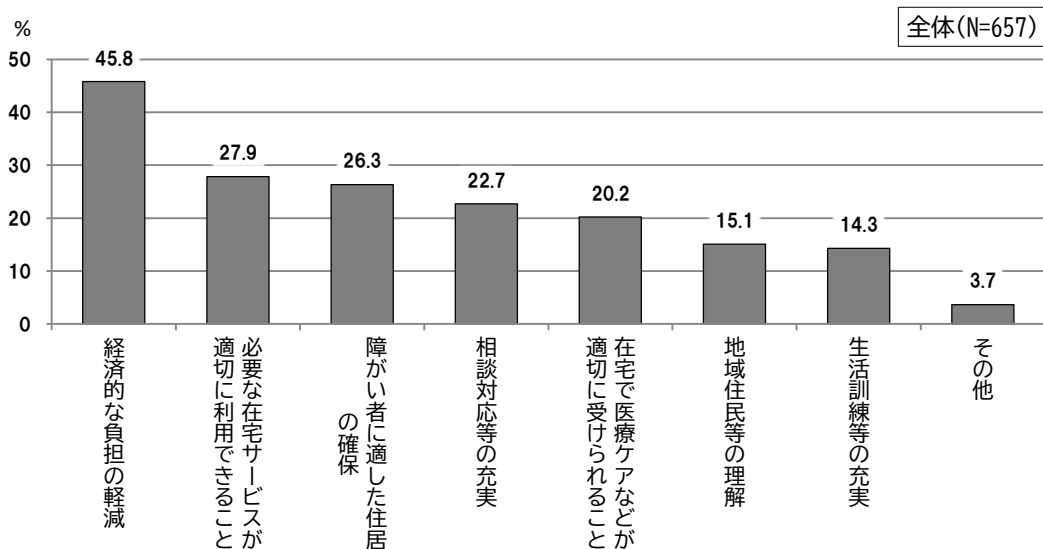


(3)地域で生活するためにあればよいと思う支援

地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

地域で生活するためにあればよいと思う支援について尋ねたところ、「経済的な負担の軽減」(45.8%)が最も多く、以下、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」(27.9%)、「障がい者に適した住居の確保」(26.3%)、「相談対応等の充実」(22.7%)、「在宅で医療ケアなどが適切に受けられること」(20.2%)などとなっています。

<地域で生活するためにあればよいと思う支援>



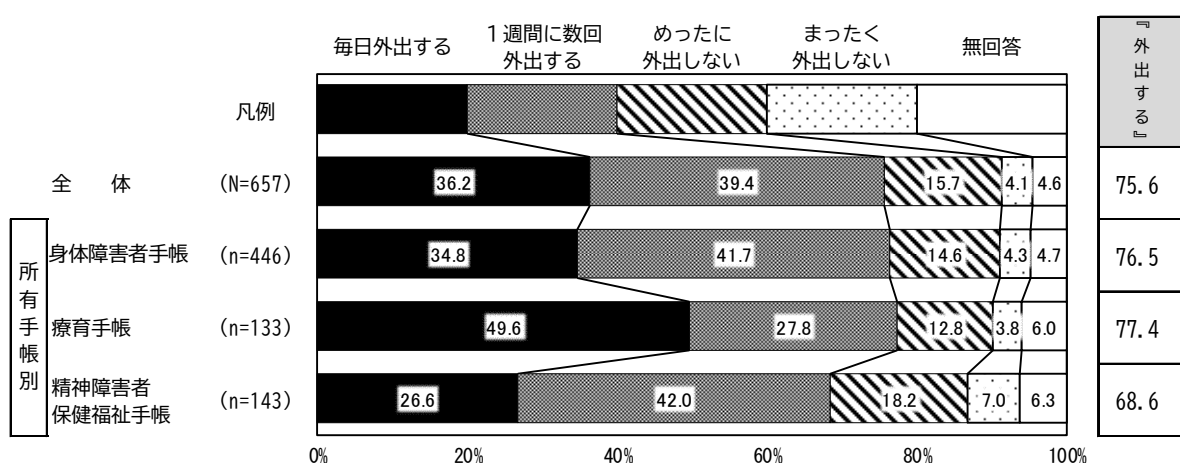
5. 日中活動や就労について

(1) 外出の頻度

あなたは、1週間にどの程度外出しますか。(○は1つだけ)

外出の頻度について尋ねたところ、「1週間に数回外出する」(39.4%)が最も多く、次いで「毎日外出する」(36.2%)、「めったに外出しない」(15.7%)、「まったく外出しない」(4.1%)の順となっており、7割半ば(75.6%)が、定期的に『外出する(「毎日外出する」+「1週間に数回外出する」)』と回答しています。所有手帳別にみると、「毎日外出する」は療育手帳所有者で49.6%と最も高い割合となっています。

<外出の頻度>

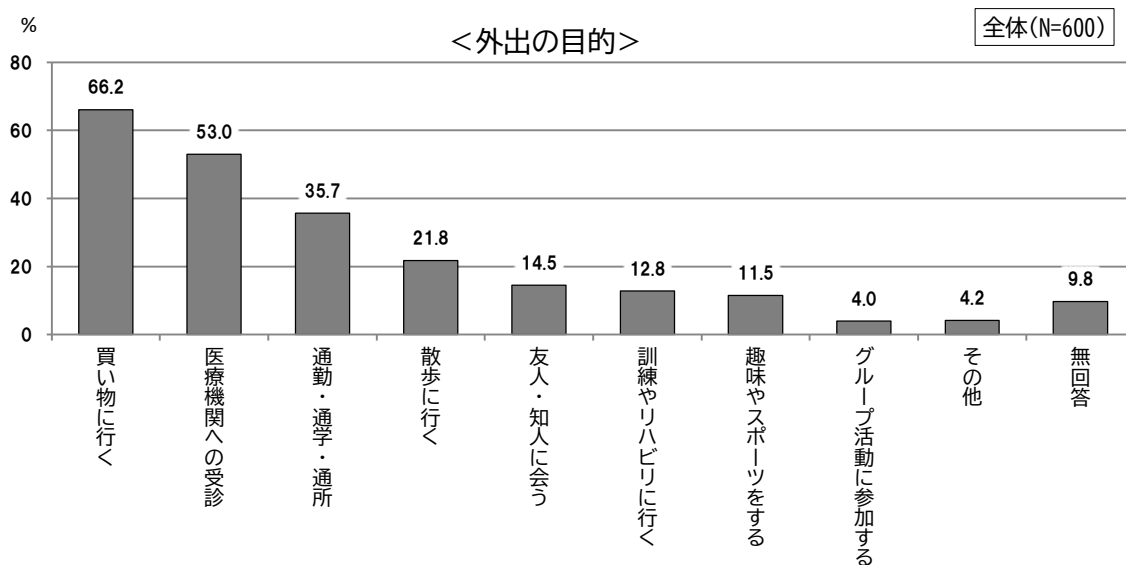


(2) 外出の目的

【「外出している」方におたずねします。】

あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。(あてはまるものすべてに○)

外出の目的について尋ねたところ、「買い物に行く」(66.2%)と「医療機関への受診」(53.0%)の2項目が突出して多くなっています。

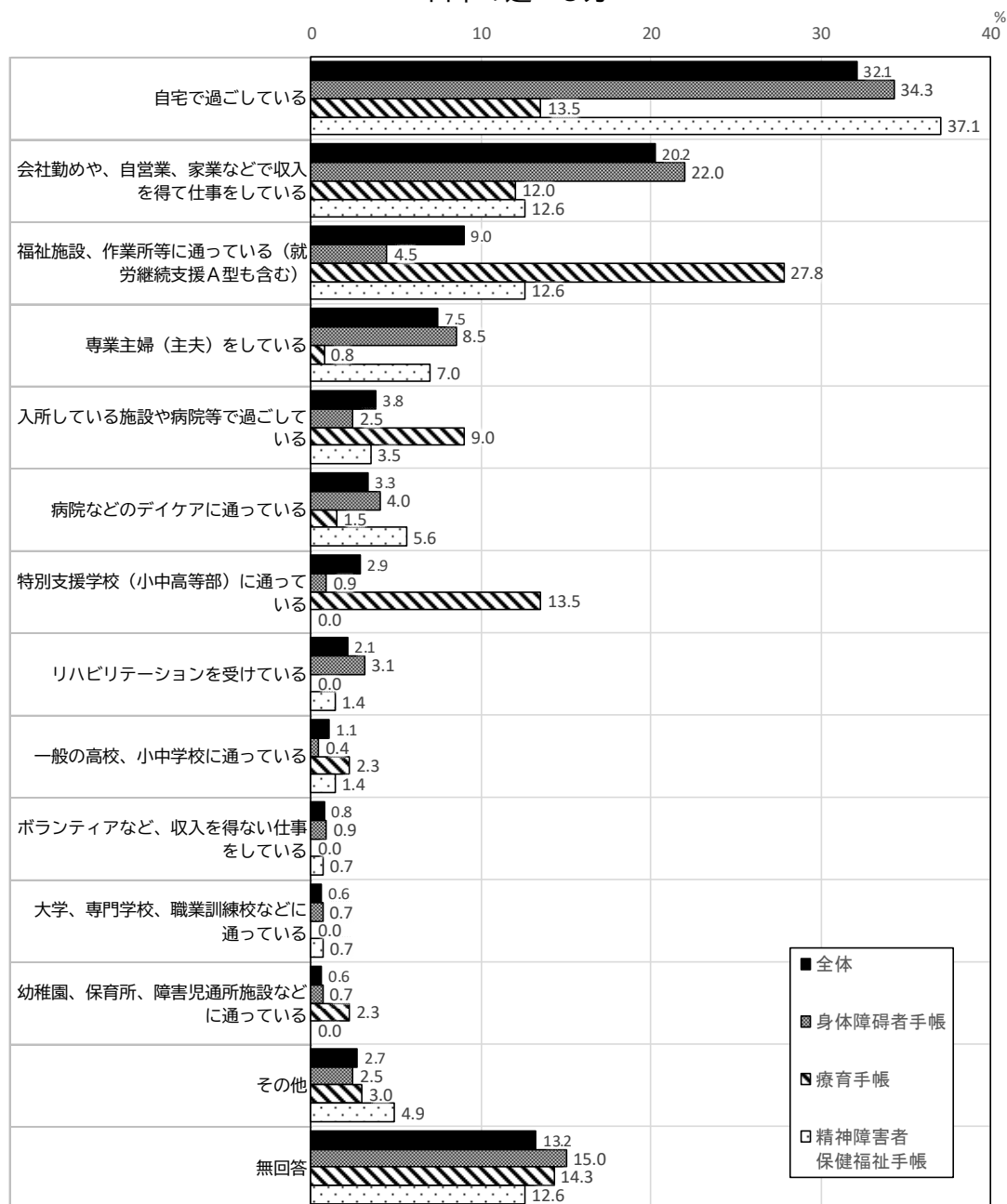


(3) 日中の過ごし方

【「外出している」方におたずねします。】
 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。(〇は1つだけ)

日中の過ごし方についてみると、「自宅で過ごしている」(32.1%)が約3割を占めて最も多くなっています。所有手帳別にみると、身体障害者手帳所有者と精神障害者保健福祉手帳所有者は「自宅で過ごしている」が、療育手帳所有者では「福祉施設、作業所等に通っている(就労継続支援A型も含む)」がそれぞれ最も多くなっています。

<日中の過ごし方>



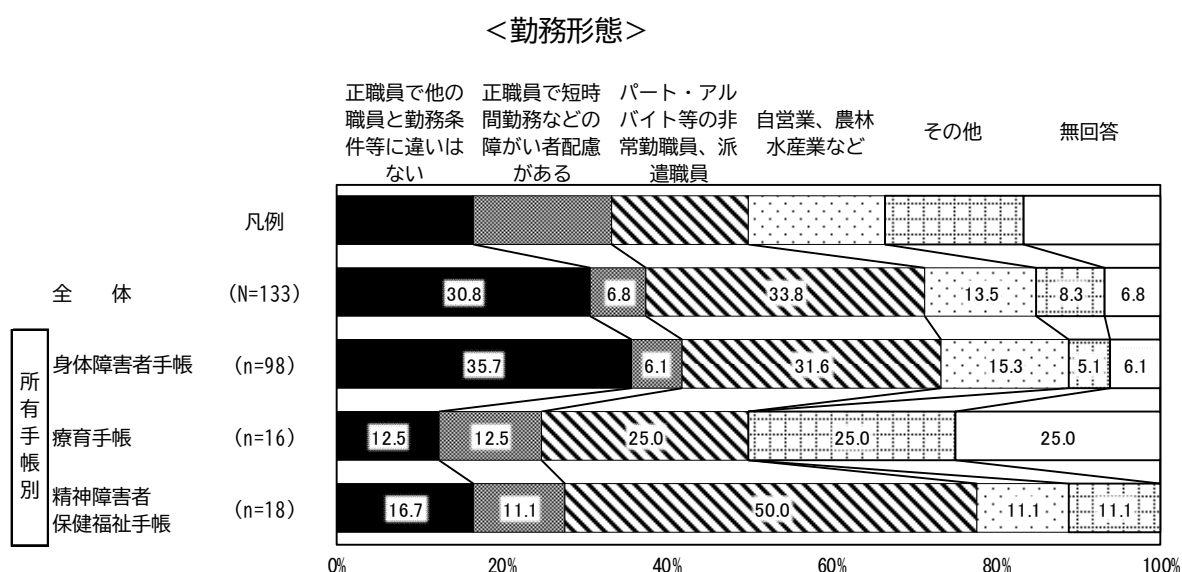
(4) 勤務形態

【仕事をしている方におたずねします。】

どのような勤務形態で働いていますか。(○は1つだけ)

勤務形態について尋ねたところ、「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」(33.8%)が最も多く、以下、「正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない」(30.8%)、「自営業、農林水産業など」(13.5%)、「正社員で短時間勤務などの障がい者配慮がある」(6.8%)の順となっています。

所有手帳別にみると、身体障害者手帳所有者では「正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない」(35.7%)が最も多く、次いで、「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」(31.6%)、「自営業、農林水産業など」(15.3%)となっています。他の手帳所有者については、サンプル数が少ないため、参考程度の掲載とします。



(5) 収入を得る仕事に就く意向

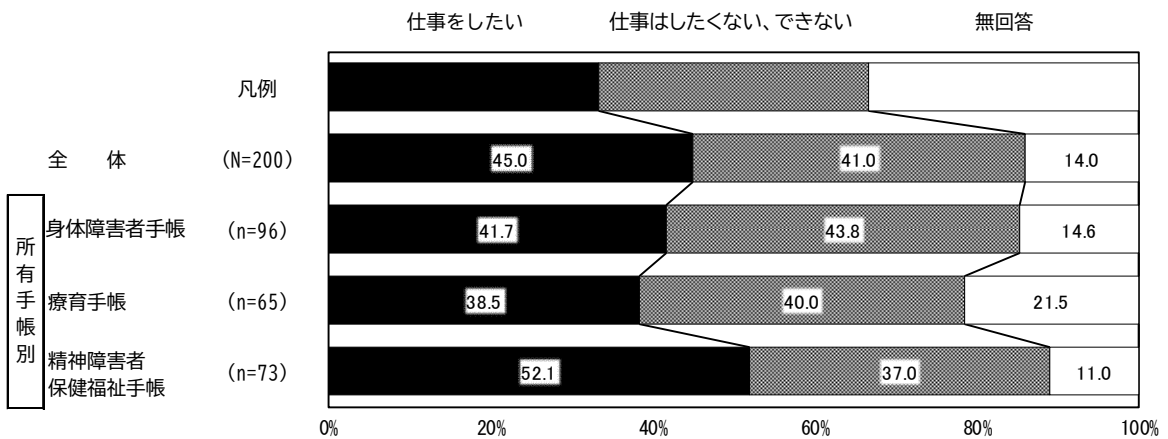
【就労していない18歳から64歳の方におたずねします。】

あなたは今後、収入を得る仕事をしたいと思いませんか。(○は1つだけ)

今後、収入を得る仕事に就きたいかどうかを尋ねたところ、「仕事をしたい」(45.0%)が「仕事はしたくない、できない」(41.0%)をやや上回っています。

所有手帳別にみると、「仕事をしたい」と回答した人は、精神障害者保健福祉手帳所有者(52.1%)が最も多く、次いで、身体障害者手帳所有者(41.7%)、療育手帳所有者(38.5%)となっており、精神障害者保健福祉手帳所有者では半数以上が収入を得る仕事に就きたいという意向を持っています。

<収入を得る仕事に就く意向>



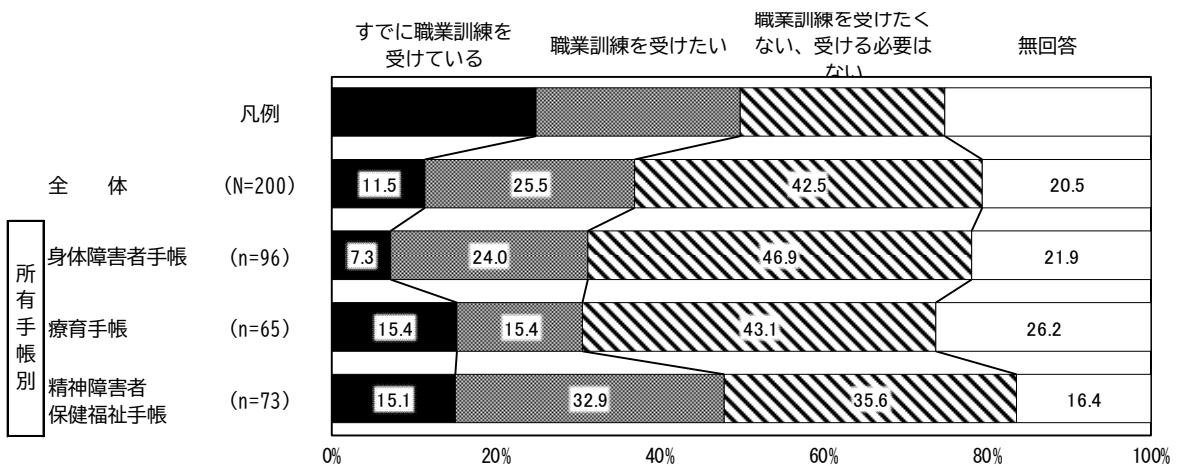
(6) 職業訓練の受講意向

【就労していない18歳から64歳の方におたずねします。】
 収入を得る仕事を得るために、職業訓練などを受けたいと思いますか。(○は1つだけ)

職業訓練の受講意向を尋ねたところ、「職業訓練を受けたくない、受ける必要はない」(42.5%)が最も多く、次いで「職業訓練を受けたい」(25.5%)、「すでに職業訓練を受けている」(11.5%)となっています。

所有手帳別にみると、「すでに職業訓練を受けている」は療育手帳所有者(15.4%)が最も多く、「職業訓練を受けたい」は精神障害者保健福祉手帳所有者(32.9%)が最も多くなっています。

<職業訓練について>

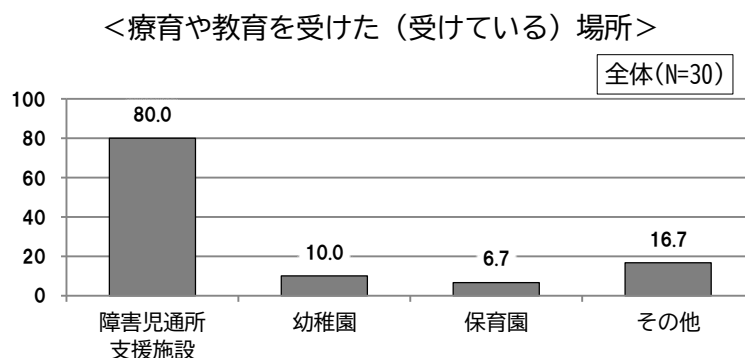


6. 療育・教育について(18歳未満)

(1) 療育や教育を受けた(受けている)場所

【療育や教育を受けた経験がある方におたずねします。】
療育や教育を受けた(受けている)場所はどこですか。

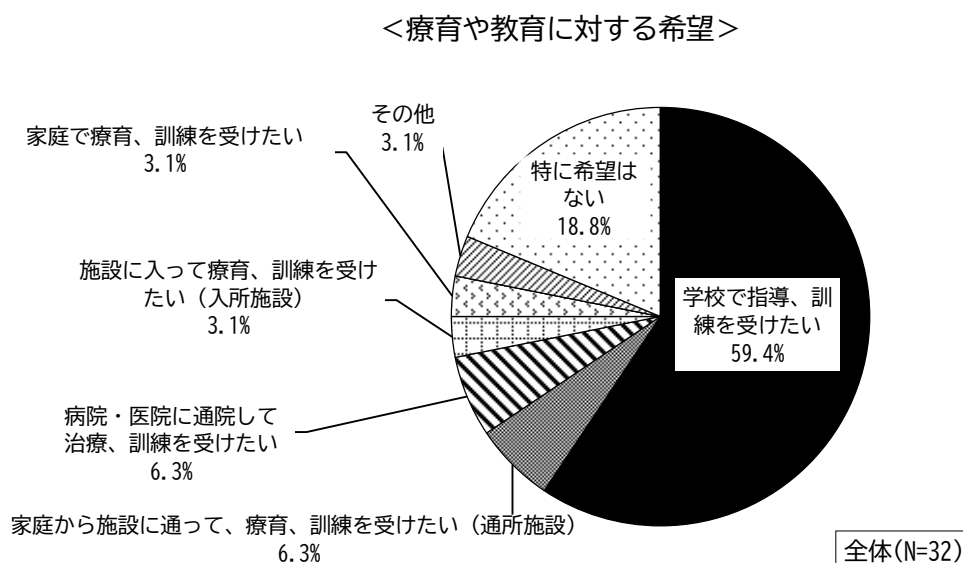
療育や教育を受けた(受けている)場所を尋ねたところ、「障害児通所支援施設」(80.0%)が8割を占めて最も多く、次いで、「幼稚園」(10.0%)、「保育園」(6.7%)となっています。



(2) 療育や教育に対する希望

療育・教育について、今後どのような希望がありますか。(○は1つだけ)

療育や教育に対する希望を尋ねたところ、「学校で指導、訓練を受けたい」(59.4%)が約6割を占めて最も多く、次いで「家庭から施設に通って、療育、訓練を受けたい(通所施設)」、「病院・医院に通院して治療、訓練を受けたい」(6.3%)となっています。なお、「特に希望はない」も2割弱みられます。



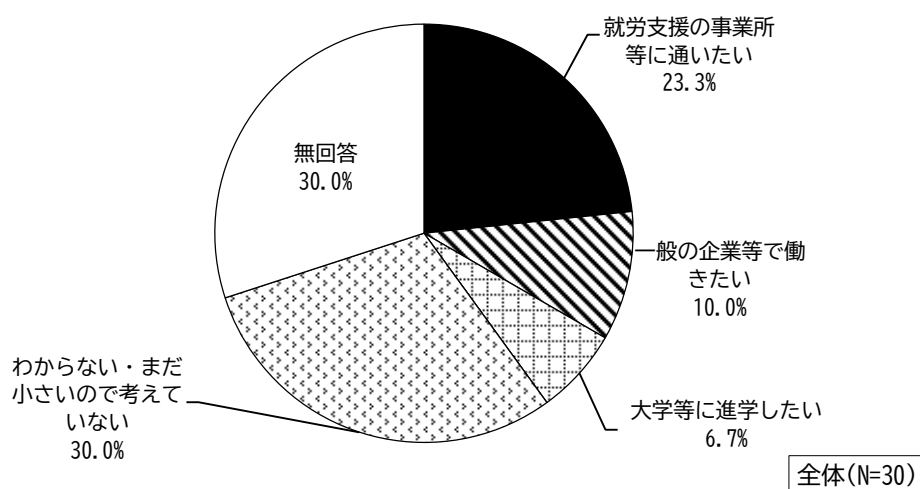
(8) 学校（中学校または高等学校）を卒業した後の進路

【宛名の方が保育園・幼稚園等や学校に通っている場合のみお答えください。】

問 45 お子さんが学校（中学校または高等学校）を卒業した後の進路について、どのようにお考えですか。お子さん自身の希望に最も近いと思われるものを選んでください。（○は1つだけ）

学校（中学校または高等学校）を卒業した後の進路について尋ねたところ、「就労支援の事業所等に通いたい」（23.3%）が最も多く、次いで「一般の企業等で働きたい」（10.0%）、「大学等に進学したい」（6.7%）などとなっています。なお、「わからない・まだ小さいので考えていない」（30.0%）も3割みられます。

<学校（中学校または高等学校）を卒業した後の進路>



7. 障がい福祉サービス等の利用について

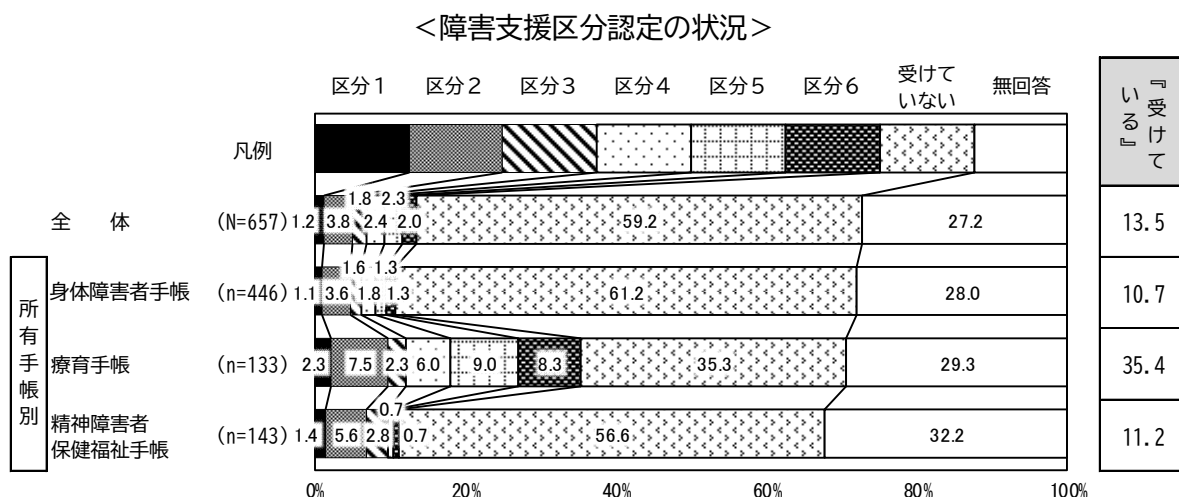
(1) 障害支援区分認定の状況

あなたは障害支援区分の認定を受けていますか。(○は1つだけ)
 ※障害支援区分とは、障害福祉サービス（ヘルパーやデイサービスなど）を利用する際に、必要となるもので、障がいの多様な特性その他の心身の状態に応じて必要とされる標準的な支援の度合いを総合的に示すものをいい、認定調査等を行ない認定をするものです。

障害支援区分認定の状況について尋ねたところ、「受けていない」(59.2%)が6割弱を占め、『受けている』は13.5%と1割強にとどまっています。障害支援区分の割合に大きな差はみられませんでした。

所有手帳別にみると、障害支援区分認定を受けているのは療育手帳所有者(35.4%)が最も多く、次いで、精神障害者保健福祉手帳所有者(11.2%)、身体障害者手帳所有者(10.7%)となっています。

内訳としては、身体障害者手帳所有者、精神障害者保健福祉手帳所有者では「区分2」、療育手帳所有者では「区分5」が最も多くなっています。



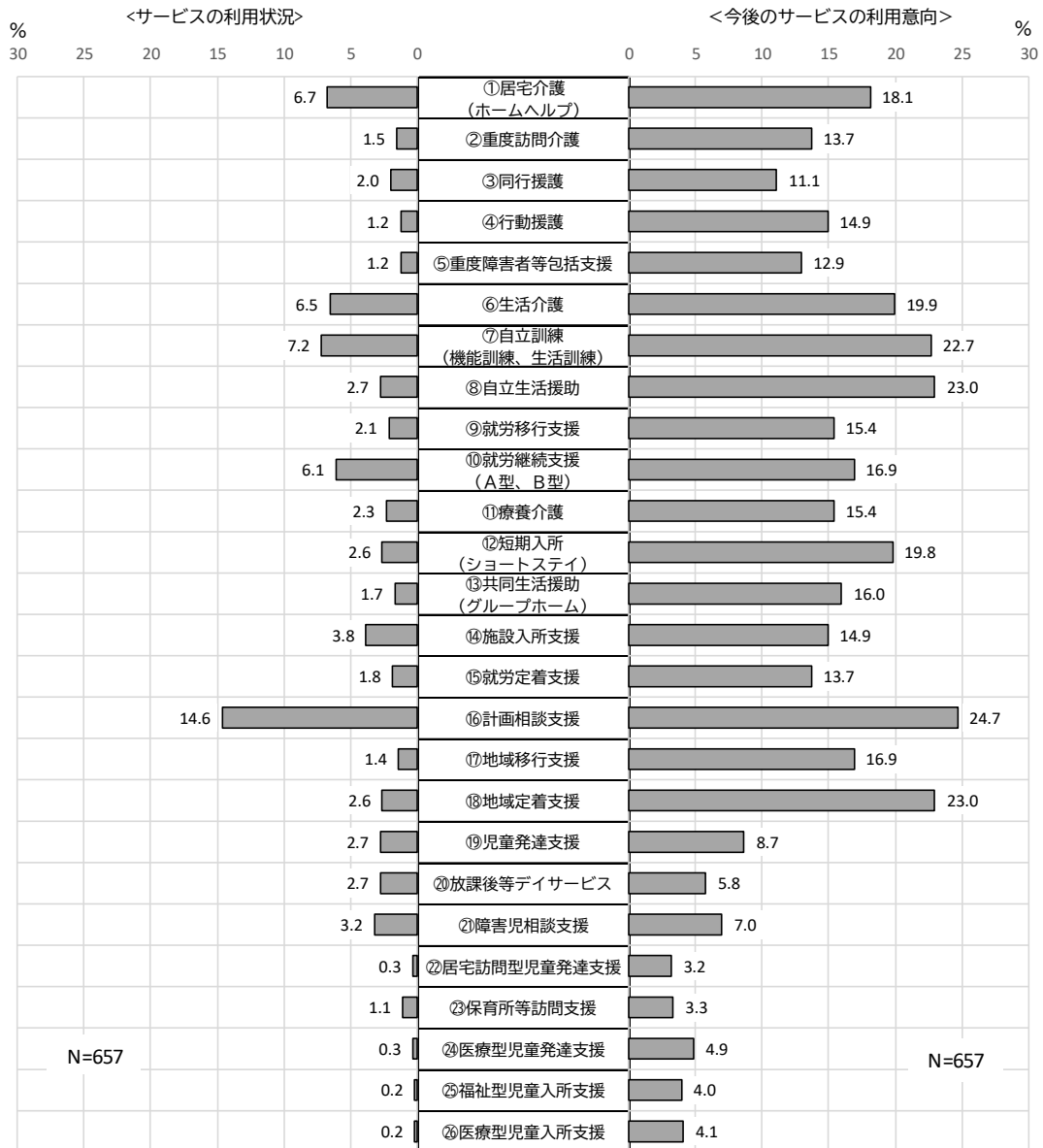
(2) 障害福祉サービス等の利用状況

あなたは次のサービスを利用していますか。また、今後利用したいと考えますか。(①から⑳それぞれについて、「現在利用しているか」と「今後利用したいか」の両方を回答(○を記入してください))

現在のサービス利用状況を尋ねたところ、「利用している」と回答した人が最も多いサービスは「⑯計画相談支援」(14.6%)で、次いで、「⑦自立訓練(機能訓練、生活訓練)」(7.2%)、「①居宅介護(ホームヘルプ)」(6.7%)、「⑥生活介護」(6.5%)、「⑩就労継続支援(A型、B型)」(6.1%)などの順となっています。

一方、今後のサービス利用意向については、「⑯計画相談支援」(24.7%)が現在の利用状況と同じく最も多く、次いで「⑧自立生活援助」、「⑱地域定着支援」(23.0%)、「⑦自立訓練(機能訓練、生活訓練)」(22.7%)、「⑥生活介護」(19.9%)などの順となっています。

<サービスの利用状況と今後の利用意向>



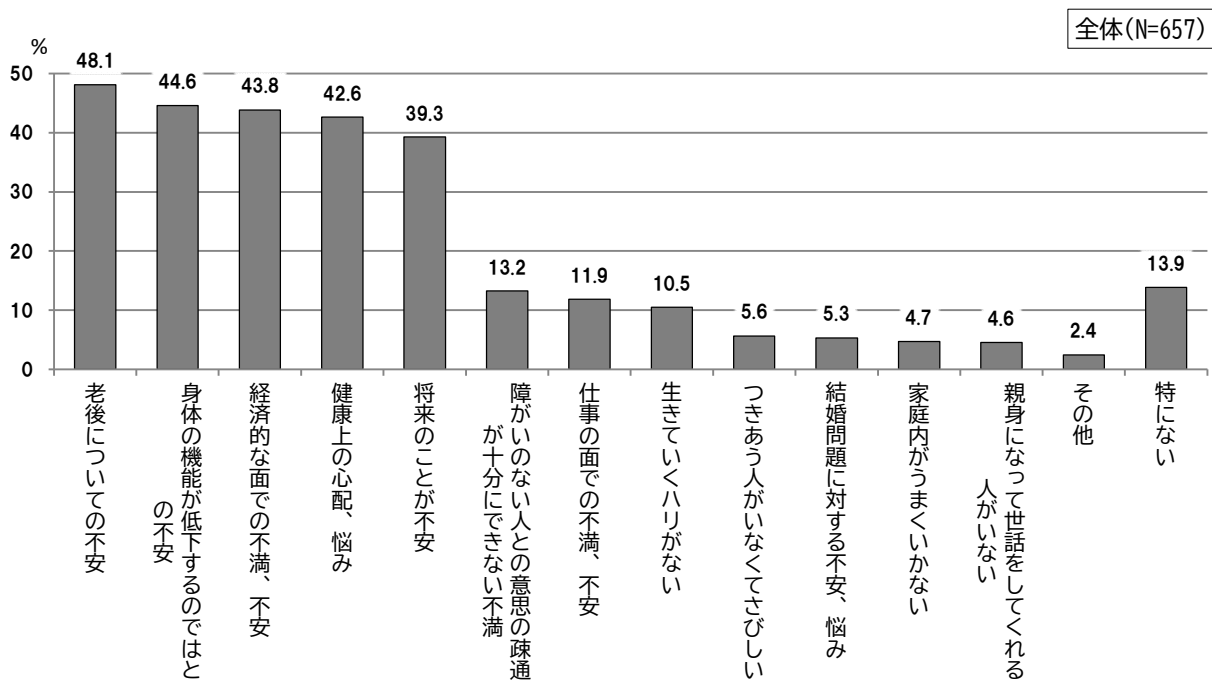
8. 相談などについて

(1) 生活上の不満、心配ごと、悩みなど

あなたは、現在の生活の中で、不満なことや心配なこと、悩んでいることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

生活上の不満、心配ごと、悩みなどについて尋ねたところ、「老後についての不安」(48.1%)、「身体の機能が低下するのではとの不安」(44.6%)、「経済的な面での不満、不安」(43.8%)、「健康上の心配、悩み」(42.6%)、「将来のことが不安」(39.3%)の5項目が他を大きく上回っています。

<生活上の不満、心配ごと、悩みなど>



(2)相談相手

問 49 あなたは、普段、悩みや困ったことをどなたに相談しますか。(あてはまるものすべてに○)

相談相手について尋ねたところ、「家族や親せき」(67.1%)が6割半ばを占め圧倒的に多く、次いで「友人・知人」(28.3%)、「かかりつけの医師や看護師」(24.2%)となっています。

<相談相手>

